

基底

定義 $V \ni v_1, \dots, v_n$ が次の条件をみたすとき.

$\{v_1, \dots, v_n\}$ を V の **基底** という.

条件: (1) v_1, \dots, v_n は 1次独立.

(2) $V = \langle v_1, \dots, v_n \rangle$ である

すなわち、 V の任意のベクトルは、 v_1, \dots, v_n の 1次結合で表される.

例題 $v_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, v_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$ が基底であることを示せ.

答 まず、 v_1, v_2 が 1次独立であることを示す.

$$A = [v_1, v_2] = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \quad \text{とあって、rank } A \text{ を調べると.}$$

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \xrightarrow{2\text{行} - 1\text{行}} \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \quad \text{よって rank } A = 2 \text{ となる.}$$

v_1, v_2 は 1次独立である

次に、 V の任意のベクトル $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ が v_1, v_2 の 1次結合で表されることを示したいので、

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = t \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} + s \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \quad \text{となっていればよい.}$$

これを、 t と s の連立方程式だと思い解くと.

$$\begin{cases} t + s = x \\ t + 2s = y \end{cases} \quad \text{よって} \quad \begin{cases} s = y - x \\ t = 2x - y \end{cases} \quad \text{とできる}$$

$$\therefore \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = (2x - y) \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} + (y - x) \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \quad \text{であるので、} \quad \mathbb{R}^2 = \langle v_1, v_2 \rangle \text{ である}$$

$\therefore \{v_1, v_2\}$ は \mathbb{R}^2 の基底である

問題 (1) $v_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix}$, $v_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$ が \mathbb{R}^2 の基底であることを示せ.

(2) $v_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$, $v_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix}$, $v_3 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3$ が \mathbb{R}^3 の基底であることを示せ.

答 (1) $A = [v_2, v_1] = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 3 \end{bmatrix}$ とおくと.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 3 \end{bmatrix} \xrightarrow{2\text{行}-1\text{行}} \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \text{ となるので } \text{rank } A = 2 \text{ である.}$$

$\therefore v_1, v_2$ は 1次独立.

また $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = s \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix} + t \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ を s と t について解くと.

$$\begin{cases} s = y - x \\ t = 3x - 2y \end{cases} \text{ をえる.}$$

$\therefore \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = (y-x)v_1 + (3x-2y)v_2$ となるので.

$\{v_1, v_2\}$ は基底である.

(2) $A = [v_1, v_2, v_3] = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ とおくと.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{2\text{行}-1\text{行}} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & -2 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \text{ より } \text{rank } A = 3 \text{ である}$$

$\therefore v_1, v_2, v_3$ は 1次独立.

また、
$$\begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = p \cdot \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + q \cdot \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} + r \cdot \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad \text{を解く。}$$

$$\begin{cases} p = \frac{1}{2}(x+y) \\ q = \frac{1}{2}(x-y) \\ r = z \end{cases} \quad \text{をえる。}$$

$$\therefore \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \frac{1}{2}(x+y) \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + \frac{1}{2}(x-y) \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} + z \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad \text{とできるのだ。}$$

$\{v_1, v_2, v_3\}$ は基底である。

次元

補題 4.6

$a_1, \dots, a_n \in V$ がそれぞれ $b_1, \dots, b_m \in V$ の 1 次結合で表されていたとする。

もし、 $n > m$ ならば、 a_1, \dots, a_n は 1 次従属である

(!) まず、仮定より、

$$a_1 = c_{11}b_1 + c_{21}b_2 + \dots + c_{m1}b_m$$

$$a_2 = c_{12}b_1 + c_{22}b_2 + \dots + c_{m2}b_m$$

⋮

$$a_n = c_{1n}b_1 + c_{2n}b_2 + \dots + c_{mn}b_m$$

とできる。

ここで連立方程式

$$\begin{cases} c_{11}x_1 + c_{12}x_2 + \dots + c_{1n}x_n = 0 \\ c_{21}x_1 + c_{22}x_2 + \dots + c_{2n}x_n = 0 \\ \vdots \\ c_{m1}x_1 + c_{m2}x_2 + \dots + c_{mn}x_n = 0 \end{cases}$$

↙ $x_1a_1 + x_2a_2 + \dots + x_na_n$ の b_1 の係数。

を考えると。

$n > m$ であることから、この連立方程式は、

自明でない解 d_1, \dots, d_n をもつ。これより、

$$\begin{aligned} & d_1 a_1 + d_2 a_2 + \dots + d_n a_n \\ &= d_1 C_{11} b_1 + d_1 C_{21} b_2 + \dots + d_1 C_{m1} b_m \\ &+ d_2 C_{12} b_1 + d_2 C_{22} b_2 + \dots + d_2 C_{m2} b_m \\ &\quad \vdots \\ &+ d_n C_{1n} b_1 + d_n C_{2n} b_2 + \dots + d_n C_{mn} b_m \\ &= 0 \end{aligned}$$

となり、 a_1, \dots, a_n は 1 次従属である。

定理 4.7: $\{v_1, \dots, v_n\}, \{u_1, \dots, u_m\}$ を V の基底とすると、

$n = m$ である。

☺ v_1, \dots, v_n は u_1, \dots, u_m の 1 次結合で表されているから、

補題 4.6 より、 v_1, \dots, v_n が 1 次独立であるためには

$n \leq m$ でないといけない。

同様に $m \leq n$ もわかるので、 $n = m$ である

定義. V が有限個のベクトルで生成されているとき、 V は有限次元であるといい、

有限次元でないときは、無限次元であるという。

さらに、有限次元のときは定理 4.7 より基底のベクトルの個数は一定なので、

この個数を V の次元 **次元** といい、 $\dim V$ で表す

また、 $\dim\{0\} = 0$ と定める。

例. \mathbb{R}^n は $\{e_1, \dots, e_n\}$ を基底として持つので.

$\dim \mathbb{R}^n = n$ である.

例題. $V = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid x+y=0 \right\}$ の次元を求めよ.

答. まず $x+y=0$ を解くと. $x=t$ とおいて $y=-t$ をえる.

\therefore 一般解は $\begin{bmatrix} t \\ -t \end{bmatrix} = t \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$ である

$\therefore V = \left\langle \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \right\rangle$ より $\dim V = 1$ である.

問題. 次の線形空間の次元を求めよ.

$$(1) V = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid x+2y=0 \right\}$$

$$(2) V = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid x+y+z=0 \right\}$$

答 (1) $x+2y=0$ を解くと. $y=t$ とおいて $x=-2t$ となる.

\therefore 一般解は $\begin{bmatrix} -2t \\ t \end{bmatrix} = t \cdot \begin{bmatrix} -2 \\ 1 \end{bmatrix}$ である

$\therefore V = \left\langle \begin{bmatrix} -2 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$ より $\dim V = 1$ である

(2) $x+y+z=0$ を解くと. $y=t, z=s$ とおいて. $x=-t-s$ となる.

\therefore 一般解は $\begin{bmatrix} -t-s \\ t \\ s \end{bmatrix} = t \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + s \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$ である

$\therefore V = \left\langle \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right\rangle$ より $\dim V = 2$ である.